

社会福祉法人あおば福祉会
おひさま保育園

2021年度（第24年度）事業計画（案）

はじめに

『おひさま保育園』は24年目、小規模保育事業所『おひさまっこ保育園』も4年目を迎えます。子どもたちの発達保障や育ちの継続のために、両園で連携・交流を図ってきました。3年が経過し、そのことがようやく象られてきたように思っています。昨年度はコロナ禍の影響で、様々な行事で“集う”ことが難しく、中止や制限を余儀なくされました。その都度、保護者と協議をしながら、子どもたちの最善を考え合い、行事のあり方を追求してきました。人が集う事で、暮らしの喜びや悩みも共有できることを、より強く意識することができました。今後も感染予防に努めながら、保育園が様々な世代の人たちが集う場としての役割を果たしていきたいと考えています。今年度は管理職が交代する年でもあります。保育の質に繋がる研修や指導計画などについても論議しながら、みんなで決めたことを実践して、ふり返ることができる職員集団づくりを目指していきたいと思えます。

1 こどもの入園予定

おひさま保育園 定員：90名

クラス（対数）	定員	4月予定児童数	支援児	新入園児（予定）	継続児童数
0歳児（3：1）	9	9	0	9	0
1歳児（5：1）	12	12	0	3	9
2歳児（6：1）	15	15	0	3	12
3歳児（15：1）	18	20	0	5（連携）	15
4歳児（30：1）	18	18	0	0	18
5歳児（30：1）	18	18	0	0	18
合計	90	92	0	20	72

※一時保育事業実施

2 職員体制と職員の状況（新規採用・異動職員）

新規採用者 保育士① 2021年4月1日付（新卒者）

保育士② 2021年4月1日付（新卒者）

保育士③ 2021年4月1日付（新卒者）

異動者 園長（おひさま岡町保育園へ異動）

保育士③（おひさまっこ保育園より異動）

育休復帰者 保育士④ 4/1～

正規職員・・・・・・・・ 16名

園長1 副主任1 保育士12 栄養士2

パート職員・・・・・・・・ 14名

常勤パート職員・・・ 5名

保育士4名・看護師1名

短時間パート職員・・・ 9名

保育士5名・保育補助3名・警備1名

嘱託医・・・・・・・・ 4名

なんばこどもクリニック

（難波 直樹小児科医師）

カワムラ歯科診療所

（河村 忠成歯科医師）

岡崎眼科

（岡崎 俊夫眼科医師）

伊吹耳鼻科

（林 伊吹耳鼻科医師）

3 子どもの安全と健康・危機管理

危機管理に対しての継続的な学習と実践をする

- ・避難訓練は、毎月の職員会議でふり返りを行い、回を重ねるごとに中身を発展させていく。
- ・不審者侵入防止の訓練を充実させるために、さすまたの増設、施設環境の強化を図る。
- ・窒息、誤飲を防ぐための給食提供のあり方を検討し、万が一の処置について、ロールプレイングを通して学習する。
- ・新型コロナウイルス感染症の正しい理解のための学習会（秋頃実施）を行い、適切な感染予防対策に努める。
- ・リスクマネジメント部を新たに設け、危機管理に向けての体制を構築する。
- ・朝の視診についての徹底を図るために、観察の視点を全職員で学び合い、記録を継続する。
- ・消火器の使用期限を管理し、職員全員が使える様に実地訓練を行う。

日常に起こる事故やけがの検証を

- ・ヒヤリ・ハットについて、全体で検討が必要な場合は職員会議で報告・分析する。
- ・インシデント・アクシデントは職員会議で共有化する。

保育環境・労働環境を守るために

- ・衛生推進者の研修を受講（看護師）し、「安全チェックリスト」を活用した点検を月に一回行う。
- ・日常的な腰痛予防体操、出勤時の手洗いと検温を徹底し、職員の健康管理に努める。
- ・園庭の水まわりと外トイレ、ホールの床暖房の改修工事を行う。

4 保護者の願いに応え、子どもと共に育ちあう関係を大切に！

保護者の要求や願いに応え、共に育ちあう喜びが共有できる

- ・太鼓サークル『陽（サン）』の活動を通して、保護者と職員の連携を図りながら、文化的な活動を支援していく。
- ・運動会・リズム参観・生活発表会、そして季節に関わる行事は、おひさま・おひさまっこ両園合同で行う。懇談会や保育参観などを通して、保護者同士の繋がりをあえる機会をつくる。
- ・北支部スポーツ大会を年に一度実施する。また、保護者が主体となって企画運営できるよう関わる。
- ・長時間保育のため日常話ができない保護者との個人懇談や家庭訪問の実施を積極的に行う。
- ・保護者会主催の親睦会にも参加しながら、保護者同士の関係を繋いでいく。
- ・障害をもつ親同士の子育てカフェを、心理に携わる方にも参画していただき、定期的を開催する。

5 地域に根ざし地域に必要とされる保育園をめざして（地域貢献事業）

地域に開かれた保育園をめざし、地域貢献事業にとりくみます。

- ・高齢者うたごえサークル『ビビデバビデブー』（月1回）と一緒に、子どもたちも一緒にうたったり、食事を共にする機会をもつ。
- ・畑の管理について、区画整理をはかる。朝夕、長期休みの水やりなどは、地域の人や保護者の力もかりていく。
- ・保育園横の公園掃除を、保育に位置づけ、地域の美化に努めていく。
- ・スマイルサポーター研修を受講（足立）し、新たな育児相談支援員の育成を目指す。

地域の教育機関・施設との連携を

- ・幼・保・小連絡協議会を中心に、近隣の施設交流をはじめ、教師との交流の場をもっていく。

- ・豊中市立児童発達支援センターと連携しながら、発達に弱さを抱える子ども達や保護者を支援していく。

地域にとって大切な社会資源としての保育園に

- ・地域のあそぼう会（文庫活動）に参加する人との関係づくりをはかる。担当者（総主任）を中心にして、育児相談や離乳食相談会をおこなう。
- ・読み聞かせボランティアを、おひさま保育園・おひさまっこ保育園でおこない、地域の子ども達も参加できる様によびかける。
- ・「熊野田校区福祉連絡会」「夕日丘自治会（さつき会・子ども会）の方々と一緒に、地域の福祉向上に参画していく（配食サービス・介護予防体操・親睦会）。
- ・地域貢献事業として、子どもの居場所づくり「おひさまの家」事業を立ち上げ、生活保障のために支援を要する卒園児を中心とした地域の学童を受け入れ、生活保障と在園児との交流の場として位置付ける。

6 職員の資質向上をめざして

「実践」と「学習」が結びついた研修を

- ・キャリア段階に沿った研修課題を明確にし、対象者はキャリアアップ研修4分野取得を目指す。
- ・保育実践と照らし合わせた『長瀬 t 研修』を年に3回実施する。
- ・豊中支部で連携を図り、4・5歳を中心にした幼児会議と給食室会議を合同で行う。また、拡大豊中会議を定期的に行い、お互いの実践交流を図りながら、保育計画の立案や子ども理解につなげる。

他園との交流を通して、学び合う

- ・「おひさま保育園・おひさまっこ保育園」「おひさま岡町保育園」の豊中地域の交換研修（一人二週間単位）と、北支部の四園交換研修を行い、お互いに保育の質を高め合う。
- ・熊野田校区連絡会に参加しながら、民間保育園との交流をする。また豊中保問研を中心にししながら、保育者同士の学び合いの場を持つ。
- ・こども財団主催の研修にも積極的に参加して学び合う。

講師を招いて、研修会を実施

- ・「理論と実践を結び付けて」 講師：長瀬美子氏（大阪大谷大学）・年3回
- ・「新型コロナウイルスの正しい理解」 講師：松岡太郎氏（豊中市保健所長）・秋頃

7 中長期計画に関して

人について

- ・豊中支部の管理職で連携を図る。
- ・次世代に向けて、中堅職員育成のための研修や役割を明確にする。

修繕について

- ・子どもたちの動線を検討し、園庭の水回りと外トイレの改修をする。 200万円
- ・ホールの床暖房を修繕する。 320万円
- ・各クラスの施設環境を強化する。 30万円

事業について

- ・育てる会を締めくくり、新たな組織として、おひさまの会『ポカポカ』を発足させる。
- ・25周年記念事業に向けて、記念冊子づくりに着手する。
- ・2022年度の第三者評価受審に向けて準備をすすめる。